

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	森ノ宮医療大学
設置者名	学校法人 森ノ宮医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
保健医療学部	看護学科	夜・通信	0	0	20	20	13	
	理学療法学科	夜・通信	0	0	17	17		
	作業療法学科	夜・通信	0	0	20	20		
	臨床検査学科	夜・通信	0	0	20	20		
	臨床工学科	夜・通信	0	0	16	16		
	診療放射線学科	夜・通信	0	0	20	20		
	鍼灸学科	夜・通信	0	0	20	20		
看護学部	看護学科	夜・通信	0	0	20	20		
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	夜・通信	0	0	17	17		
	作業療法学科	夜・通信	0	0	20	20		
	言語聴覚学科	夜・通信	0	0	20	20		
医療技術学部	臨床検査学科	夜・通信	0	0	21	21		
	臨床工学科	夜・通信	0	0	16	16		
	診療放射線学科	夜・通信	0	0	20	20		
	鍼灸学科	夜・通信	0	0	20	20		

(備考)

2022 年度より保健医療学部の 1 学部から看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部の 3 学部へ再編を行った。

2024 年度に総合リハビリテーション学部言語聴覚学科を開設した。

・2025 年度入学生対象カリキュラム「実務経験のある教員等による授業科目」単位数
＜総合リハビリテーション学部＞

言語聴覚学科 20 単位

臨床検査学科 21 単位

臨床工学科 16 単位

診療放射線学科 22 単位

鍼灸学科 20 単位

・2024 年度入学生対象カリキュラム「実務経験のある教員等による授業科目」単位数
＜総合リハビリテーション学部＞

理学療法学科 17 単位

作業療法学科 20 単位

言語聴覚学科 20 単位

＜医療技術学部＞

診療放射線学科 22 単位

・2023 年度入学生対象カリキュラム「実務経験のある教員等による授業科目」単位数
＜医療技術学部＞

臨床工学科 16 単位

・2022 年度以降入学生対象カリキュラム「実務経験のある教員等による授業科目」単位数

＜看護学部＞

看護学科 20 単位

＜総合リハビリテーション学部＞

理学療法学科 17 単位

作業療法学科 20 単位

＜医療技術学部＞

臨床検査学科 19 単位

臨床工学科 16 単位

診療放射線学科 20 単位

鍼灸学科 20 単位

・2020 年度以降入学生対象カリキュラム「実務経験のある教員等による授業科目」単位数
＜保健医療学部＞

看護学科 20 単位

理学療法学科 17 単位

作業療法学科 20 単位

臨床検査学科 20 単位

臨床工学科 16 単位

診療放射線学科 20 単位

鍼灸学科 20 単位

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://portal.morinomiya-u.jp/uprx/>

MORIPA (学務システム) にて公表。※「◆シラバス検索はこちら◆」をクリックでログイン。キーワードに「実務経験のある教員」等を入力し検索することで閲覧可能

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	森ノ宮医療大学
設置者名	学校法人 森ノ宮医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：<https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 総長	令和7年6月5日～令和11年度定時評議員会 終結時まで	外部の目による理事会機能の透明性を担保し、ガバナンスを強化する。
非常勤	公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 名誉院長、特別顧問	令和7年6月5日～令和11年度定時評議員会 終結時まで	外部の目による理事会機能の透明性を担保し、ガバナンスを強化する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	森ノ宮医療大学
設置者名	学校法人 森ノ宮医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【授業計画(シラバス)の作成過程】 本学ではシラバスに関し、科目担当教員(複数担当教員の場合は科目主担当者を取りまとめ)が作成し、各学科長、学部長の確認を経て大学ホームページ、本学学生向けポータルサイト(MORIPA)にて公表する。 【授業計画の作成・公表時期】 9年度の教授会で次年度の科目担当者が決定後、速やかに授業計画の作成を開始し、12月中に完了します。1月から2月末までに学内での確認作業を終え、3月より開始する履修登録にあわせて公表します。	
授業計画書の公表方法	https://portal.morinomiya-u.jp/uprx/ MORIPA(学務システム)にて公表。※「◆シラバス検索はこちら◆」をクリックでログイン。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。評価方法は試験や課題、ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果を評価し、単位認定を行います。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では成績評価において、客観的な指標にGPAを導入している。 本学に定める『森ノ宮医療大学 GPA制度に関する細則規程』等に基づき、学習指導等に活用している。 【GPAの計算式】 学期GPA＝(当該学期に評価を受けた各授業科目のGP×当該科目の単位数)の総和／当該学期に評価を受けた授業科目の総単位数 年度GPA＝(当該年度に評価を受けた各授業科目のGP×当該科目の単位数)の総和／当該年度に評価を受けた授業科目の総単位数	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php 本学HP情報の公表ページにて公表 ※学生手帳のGPA該当ページを参照

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにある。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与している。 ①臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・技術を活用することができる。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できる。 ②他職種連携教育により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上する。 ③他者への思いやりの心をもち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。 ④わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになる。 これらの内容を各科目と紐付けカリキュラムマップとして公表し学生に周知している。学生はカリキュラムマップを参考に履修登録し、教員は履修指導を行う。結果、卒業時にはそれぞれの能力が身についた学生を輩出することができている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php 本学HP情報の公表ページにて公表 ※学生手帳の3つのポリシー該当ページを参照

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	森ノ宮医療大学
設置者名	学校法人 森ノ宮医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
財産目録	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
事業報告書	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
監事による監査報告(書)	https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2025年度事業計画について 対象年度:2025年度)
公表方法:公式WEBサイト 情報の公表ページに掲載 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
中長期計画(名称:第3期中期経営計画について 対象年度:2024年度~2028年度)
公表方法:公式WEBサイト 情報の公表ページに掲載 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/certification.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保健医療学部
教育研究上の目的 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 保健医療学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにあります。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。 【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。 【豊かな人間力】<DP3> 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。 【主体的問題解決能力】<DP4> わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【教育内容】 ① 1、2 年次には教養科目、学部共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、各専門職医療人の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ② 3、4 年次には 1、2 年次に学修した知識を基に臨床（臨地）実習において、臨床（臨地）現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。 【教育方法】 ① 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ② 臨床（臨地）実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。 ③ 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決

策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【具体的な求める人物像】 ①医療職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線学科については、専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学(数学Ⅰ・A)」を修得している。 ③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ⑤実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重(配点※)を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重(配点)は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書(課外活動)、資格取得で評価する。 【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。

学部等名 看護学部
教育研究上の目的 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)

(概要) 看護学部教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、医療人としての態度を身につけた人材を育成し、社会に輩出することにあります。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【精度の高い専門的知識と専門技術】<DP1> ①看護の対象を理解することができる。 ②社会や保健・医療・福祉の動向をふまえ、専門性の高い知識を学修することができる。 ③知識に裏づけられた確実に根拠ある技術を身につけることができる。 【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】<DP2> ①他者との相互理解に努め、コミュニケーション力を高めることができる。 ②看護や他職種の専門性を理解し、人々のQOL向上のために連携することができる。 【豊かな人間力】<DP3> ①“いのち”を尊ぶ真摯な姿勢をもつことができる。 ②豊かな感性と洞察力をもって、多様な人々を理解し共感できる。 ③医療職としての倫理観を主体的に育むことができる。 【主体的問題解決能力】<DP4> ①主体的に看護を探究し、自己の看護観をもつことができる。 ②自己の看護観や高度な専門性、他者との連携を統合した問題解決能力をもつことができる。 ③人々の個別性あるニーズを客観的にとらえ、「ヒューマンケアリング」を創造的に実践できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【教育内容】 ①1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各領域の専門知識の基礎を修得し、看護師、保健師の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ②3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。 【教育方法】 ①医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ②看護実践の基盤となる各看護学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目や保健師課程固有の実習科目を配置します。 ③他職種連携教育(IPE)を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各看護学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 【学修成果の評価方法】 ①科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ②ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【具体的な求める人物像】 ①看護職の仕事および本学の教育方針を理解し、看護に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、TOEIC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重(配点※)を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重(配点)は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書・自己推薦書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書・自己推薦書、調査書(課外活動)、資格取得で評価する。 【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。

学部等名 総合リハビリテーション学部
教育研究上の目的 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 総合リハビリテーション学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにあります。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「(6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)

(概要) 【精度の高い専門的知識と専門技術】＜DP1＞ 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。 【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】＜DP2＞ チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。 【豊かな人間力】＜DP3＞ 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。 【主体的問題解決能力】＜DP4＞ わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php）
(概要) 【教育内容】 ① 1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、リハビリテーション職の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ② 3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付けます。また、授業の集大成として卒業論文に取り組みます。 【教育方法】 ① 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ② リハビリテーション実践の基盤となる各領域のリハビリテーション学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置します。 ③ 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。また、各リハビリテーション学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れます。 ④ 予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 【学修成果の評価方法】 ① 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ② ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php）

(概要) 【具体的な求める人物像】 ①リハビリテーション専門職の仕事および本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。 ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】 ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。 ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。 ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。 ④実用英語技能検定、GTEC、TOEIC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。 【入学者選抜の方針】 高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記 ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。 ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書・自己推薦書で評価する。 ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書・自己推薦書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。 【禁煙への取り組み】 本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。
--

学部等名 医療技術学部
教育研究上の目的 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php
（概要） 医療技術学部の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材を育成し、社会に輩出することにあります。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php

(概要) 【精度の高い専門的知識と専門技術】＜DP1＞ 臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・専門技術を活用することができます。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できます。 【チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力】＜DP2＞ チーム医療が実践できるための他職種連携教育（IPE）により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上します。 【豊かな人間力】＜DP3＞ 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができます。 【主体的問題解決能力】＜DP4＞ わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになります。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【教育内容】 ① 1、2年次には教養科目、共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、各専門職医療人の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指します。 ② 3、4年次には1、2年次に学修した知識を基に臨床（臨地）実習において、臨床（臨地）現場で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、専門職医療人としての確固たる知識・技術を身に付けるために、実践的な実習を中心に演習や講義に取り組みます。 【教育方法】 ① 医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置します。 ② 臨床（臨地）実習において活用できる技術、知識の修得を目標とした実習科目を配置します。 ③ 他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置します。 ④ 予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行います。 【学修成果の評価方法】 ① 科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行います。 ② ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：大学ホームページ『情報の公表』「2. 修学上の情報等」 「（6）教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」 https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/information.php)
(概要) 【具体的な求める人物像】 ① 医療技術職の仕事および本学の教育方針を理解し、医療技術に関する学修を継続し修了する意欲がある。 ② 高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。 ③ 他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。 ④ 自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。 【高等学校で修得しておくことが望ましい水準】

- ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。
- ②臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線学科については、専門科目を学ぶうえで基礎となる「数学（数学Ⅰ・A）」を修得している。
- ③生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。
- ④自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。
- ⑤実用英語技能検定、GTEC、TOEIC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。

【入学者選抜の方針】

高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行います。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点※）を変えて評価します。※各入試における①～③の評価比重（配点）は入学試験要項に明記

- ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。
- ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書・自己推薦書で評価する。
- ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書・自己推薦書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。

【禁煙への取り組み】

本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学全敷地内および大学周辺の全面禁煙化を実施しています。入学者は大学敷地内および大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とします。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/organizational.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
看護学部	－	12 人	7 人	8 人	6 人	3 人	36 人
総合リハビリテーション学部	－	15 人	7 人	11 人	6 人	0 人	39 人
医療技術学部	－	31 人	13 人	13 人	11 人	1 人	69 人
大学院	－	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
その他	－	0 人	0 人	1 人	1 人	1 人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		99 人					99 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/kyoin.php					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学部	90 人	93 人	103.3%	360 人	355 人	98.6%	0 人	0 人
総合リハビリテーション学部	150 人	161 人	107.3%	520 人	546 人	105%	0 人	0 人
医療技術学部	270 人	319 人	118.1%	1080 人	1174 人	108.7%	0 人	0 人
保健医療学部	0 人	0 人	0%	0 人	81 人	0%	0 人	0 人
合計	510 人	573 人	112.4%	1960 人	2156 人	110%	0 人	0 人
（備考）2022 年 4 月保健医療学部から医療技術学部に変更 （看護学部、総合リハビリテーション学部を新設、保健医療学部は募集停止）								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保健医療学部	421 人 (100%)	6 人 (1.4%)	389 人 (92.4%)	26 人 (6.2%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	421 人 (100%)	6 人 (1.4%)	389 人 (92.4%)	26 人 (6.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 医療業・保健衛生				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
保健医療学部	500 人 (100%)	373 人 (74.6%)	72 人 (14.4%)	55 人 (11%)	人 (%)
合計	500 人 (100%)	373 人 (74.6%)	72 人 (14.4%)	55 人 (11%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
本学ではシラバスに関し、科目担当教員（複数担当教員の場合は科目主担当者が取りまとめ）が作成し、各学科長、学部長の確認を経て大学ホームページ、本学学生向けポータルサイト（MORIPA）にて公表する。
【授業計画の作成・公表時期】
9 月度の教授会で次年度の科目担当者が決定後、速やかに授業計画の作成を開始し、12 月中に完了します。1 月から 2 月末までに学内での確認作業を終え、3 月より開始する履修登録にあわせて公表します。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本学の教育目標は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成し、社会に輩出することにある。本学ではこれを実現するための教育体制を整えており、下記能力・資質の獲得を以て卒業を認定し学位を授与している。 ①臨床（臨地）重視の教育により、自らの専門職の役割が理解でき、チーム医療の中で専門的知識・技術を活用することができる。教科書だけでは得ることのできない、実践に即した精度の高い知識と専門技術が展開できる。 ②他職種連携教育により、他職種に関する幅広い知識と理解を得ることができ、さらにチーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力が向上する。 ③他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。 ④わからないこと・問題点を的確に把握し、それに対する探究心を持って積極的に情報収集や分析ができ、自ら解決することができるようになる。 これらの内容を各科目と紐付けカリキュラムマップとして公表し学生に周知している。学生はカリキュラムマップを参考に履修登録し、教員は履修指導を行う。結果、卒業時にはそれぞれの能力が身についた学生を輩出することができている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保健医療学部	看護学科	126 単位	有	48 単位
	理学療法学科	126 単位	有	48 単位
	作業療法学科	126 単位	有	44 単位
	臨床検査学科	124 単位	有	44 単位
	臨床工学科	126 単位	有	44 単位
	診療放射線学科	126 単位	有	44 単位
	鍼灸学科 鍼灸コース	126 単位	有	48 単位
	鍼灸学科 スポーツ特修コース	144 単位	有	48 単位
看護学部	看護学科	127 単位	有	48 単位
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	126 単位	有	48 単位
	作業療法学科	126 単位	有	44 単位
	言語聴覚学科	127 単位	有	48 単位
医療技術学部	臨床検査学科	126 単位	有	44 単位
	臨床工学科	128 単位	有	44 単位
	診療放射線学科	126 単位	有	44 単位
	鍼灸学科 鍼灸コース	126 単位	有	48 単位
	鍼灸学科 スポーツ特修コース	144 単位	有	48 単位
	鍼灸学科 アスレティックトレーナーコース	163 単位	有	48 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.morinomiya-u.ac.jp/campus/map.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
看護 (2025 年 入学者) 1 年生	看護	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
看護 (2024 年 入学者) 2 年生	看護	1, 200, 000 円	0 円	560, 000 円	教育充実費 560, 000 円 休学科 240, 000 円
総合リハビリテ ーション (2025 年 入学者) 1 年生	理学療法	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
	作業療法	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
	言語聴覚	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
総合リハビリテ ーション (2024 年 入学者) 2 年生	理学療法	1, 200, 000 円	0 円	560, 000 円	教育充実費 560, 000 円 休学科 240, 000 円
	作業療法	1, 200, 000 円	0 円	560, 000 円	教育充実費 560, 000 円 休学科 240, 000 円
	言語聴覚	1, 200, 000 円	0 円	560, 000 円	教育充実費 560, 000 円 休学科 240, 000 円
医療技術 (2025 年 入学者) 1 年生	臨床検査	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
	臨床工学	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
	診療放射線	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
	鍼灸	1, 200, 000 円	250, 000 円	400, 000 円	教育充実費 400, 000 円 休学科 240, 000 円
医療技術 (2024 年 入学者) 2 年生	臨床検査	1, 200, 000 円	0 円	520, 000 円	教育充実費 520, 000 円 休学科 240, 000 円
	臨床工学	1, 200, 000 円	0 円	520, 000 円	教育充実費 520, 000 円 休学科 240, 000 円

	診療放射線	1,200,000 円	0 円	520,000 円	教育充実費 520,000 円 休学科 240,000 円
	鍼灸	1,200,000 円	0 円	520,000 円	教育充実費 520,000 円 休学科 240,000 円
看護 (2022・2023 年 入学者) 3・4 年生	看護	1,000,000 円	0 円	720,000 円	教育充実費 720,000 円 休学科 200,000 円
総合リハビリテ-ション (2022・2023 年 入学者) 3・4 年生	理学療法	1,000,000 円	0 円	710,000 円	教育充実費 710,000 円 休学科 200,000 円
	作業療法	1,000,000 円	0 円	710,000 円	教育充実費 710,000 円 休学科 200,000 円
医療技術 (2022・2023 年 入学者) 3・4 年生	臨床検査	1,000,000 円	0 円	640,000 円	教育充実費 640,000 円 休学科 200,000 円
	臨床工学	1,000,000 円	0 円	640,000 円	教育充実費 640,000 円 休学科 200,000 円
	診療放射線	1,000,000 円	0 円	640,000 円	教育充実費 640,000 円 休学科 200,000 円
	鍼灸	1,000,000 円	0 円	650,000 円	教育充実費 640,000 円 休学科 200,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1) 担任・チューター制度 各学科では担任・チューター制度等を採用しています。いずれも、学業のみならず学生生活全般にわたる問題の相談に応じます。課外活動や将来の進路および休退学等、個人的な問題についても、遠慮なく気軽に相談して下さい。 2) オフィスアワー 「オフィスアワー」とは、教員と学生がコミュニケーションを取るために設けられた時間です。授業内容についての質問はもちろん、教員との親交を深める時間として大いに利用して下さい。教員によってオフィスアワーにあてる時間が異なります。シラバスや MORIPA（学務システム）、または各教員へ直接確認の上、活用下さい。 3) 奨学金制度 (1) 森ノ宮医療大学独自の奨学金 ①入学時成績優秀者学納金減免制度（2021 年度入学生より）②スポーツ特別奨学金③ひとり住まい支援奨学金④キャリア活用社会人給付奨学金⑤成績優秀者給付奨学金⑥森ノ宮医療大学教育ローン利子補給奨学金⑦森ノ宮医療学園ファミリー奨学金⑧応急支援学納金減免制度 (2) 日本学生支援機構奨学金

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別相談(進路相談・履歴書添削等含む)、キャリアガイダンス、就職説明会、SPI 対策講座、一般教養対策講座等の実施
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 1) 健康管理センターについて 健康管理センターでは、充実した学生生活が送れるように、「からだ」と「こころ」の両面を医師・看護師・公認心理師・カウンセラーがサポートしています。急病・怪我対応、健康相談、メンタルヘルス相談、カウンセリング、学生保険「will」対応、感染症対策などを実施しており、また各種相談(禁煙・DV・ハラスメントなど)も受け付けています。 2) 学生保険「will3DX」について 万一事故が発生した場合に備えて、大学では全学生を対象とした日本看護学校協議会共済会共済制度「will3DX」に加入しています。この保険は、自身の傷害事故に加えて、実習先を含む24時間の賠償事故、さらに実習中の微生物による感染事故にも対応する医療系学生のために創られた補償制度です。 3) 大学附属クリニック・附属鍼灸施術所の利用について (1)附属クリニックの利用【森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック(内科・循環器内科・整形外科など)/場所:大学敷地内】①大学内で体調不良者・怪我人が発生した際は本人希望により健康管理センターからクリニックに受診連絡・搬送しています。②本学学生が医療施設へ臨地実習に参加するための必要な検査や予防接種(一部大学補助あり)を実施しています。 (2)附属鍼灸施術所の利用【はり・灸コスモス治療院/場所:大学敷地内】 運動前後のメンテナンスなど 本学の附属クリニックや附属鍼灸施術所で治療を受ける場合、各施設の受付で学生証を提示することによって治療費の一部が減免されます。 4) 学生相談について (1)大学生活や学業についての相談は日頃よりクラス担任やチューターの教員が対応しますが、学生支援課および健康管理センターにて大学生活全般に関わること、健康や進路についての相談を受け付けています。 (2)セクシャルハラスメント(セクハラ)およびパワーハラスメント(パワハラ)、悪徳商法、破壊的カルト等、学生支援課・クラス担任・カウンセラーが相談に応じています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法:ホームページ(教員データベースにて個々の教育研究活動を公表) https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/kyoin.php

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108349
学校名 (〇〇大学 等)	森ノ宮医療大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 森ノ宮医療学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		297人（－）人	278人（14）人	308人（16）人
内 訳	第Ⅰ区分	163人	150人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	77人	78人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	49人	36人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	8人	14人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ 0 ）人
合計（年間）				308人（ 16 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	11人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	11人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。